

園・施設名	社会福祉法人銀杏の会多賀城すみれ保育園
経営主体	社会福祉法人銀杏の会
所在地	〒985-0854 宮城県多賀城市新田字北 1-3
定員	60名
理事長名	壹岐 勇
園長名	鶴島 恵理
採用担当者	壹岐 直人(いき なおと)
電話番号	022-368-4302
保育環境 保育方針 保育目標	<p>保育理念：</p> <p>「わたしは私」（自己肯定感・自主性） のびのびと自分を表現し、見守られているという安心感の中で、自己肯定感を培う。</p> <p>「わたしはあなたと共に」 （コミュニケーション力・自己表現力） 自分らしくありながら、いろいろな人との関わりを通し、いろいろな思いがあるということを知り、それに寄り添う。</p> <p>「わたしはあなたの為に」（貢献心）</p> <p>保育方針：</p> <p>(1) 子どもが自主的、意欲的に関われるような環境を整える。 (2) 散歩や戸外での遊び、身近な生き物の世話や、畑作りなどを通して自然と十分に触れあう。 (3) 友達や、異年齢の子ども達、地域の人たちなど様々な人たちと交流を深め、人と関わる力を育む。 (4) 絵本の読み聞かせやわらべ歌を通して、創造力や豊かな心を育てる。</p> <p>保育目標：</p> <p><しなやかな心と丈夫な身体をもつ子ども></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分も相手も大切に子ども ・生き生きと毎日を楽しめる子ども ・好奇心が旺盛で意欲がある子ども自然と十分に触れあう。
保育環境	<p>保育環境を考えると「人的環境」「空間的環境」「物的環境」を意識した環境づくりを心がけています。園生活の中で子どもたちは、保育者、友達、保護者、地域の人たちなど様々な関わりの中で、言葉やコミュニケーションの方法、表現の方法、規範やルールなど社会性を身につけていきます。子ども同士が良好な関係を築けるようになるために、モデルとしての保育者同士が良好な関係であることが大切です。</p> <p>空間的環境では、「遊ぶ、食べる、寝る」場所を独立させ、子どもの遊びを保証しています。子どもが自ら環境に働きかけ遊びを発展させられるように様々ゾーン（ままごと、積み木、パズル、絵本など）を準備し、保育者は遊びの質が豊かになっていくように意識しています。</p> <p>物的環境では遊具や教材などを準備する際、子どもの発達を意識しそれに対応したものを準備することにより、子どもたちは欲求が満たされ、情緒の安定につながると考えます。</p>
ホームページURL	https://www.t-sumire.jp/about.html

事前質問回答	《保育の質》についてのお考えをお聞かせください。
	<p>【子どもにとっての質】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 『安心感』：子どもが安心できる場所があり、安心できる人がいる事。 ● 『好奇心』：子どもが遊びや生活に集中、没頭できる出来る環境がある事。 ● 『学び』：環境を通し子ども自身が考え学ぶ経験が出来る事。 <p>【保育士にとっての質】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 子どもを全面的に信じる事。 ● 一人の人間として尊重する事。 ● 子どもが自ら自身の力を発揮できる環境を構成する事。
	「“保育の質”の向上」のために取り組んでおられることについて、具体的にご紹介ください。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 『観察』：子ども一人一人の"個"、"集団"の発達を知り理解する。 ● 『対話』：観察から見てきた子どもの姿、力を引き出す為の環境構成、お茶を飲みながらの雑談、等から日々の保育について対話出来る関係が大切！対話の中で共感できる関係も。 ● 『遊び心』：子どもにとっても、大人（保育者、保護者含む）にとってもワクワクドキドキ出来る気持ちを持つ。または、見つける。そして、共有する。
	学生の就活において「職員同士の“人間関係”」が重視されていることについて、お考えをお聞かせください。
	<p>学生時代は同年代の「気の合う同士」のコミュニケーションが主であったが、職場は様々な年齢、様々な考え方をする人たちの集団なので、必ずしも「気の合う同士」とは限らない。多様性が認められる時代ではあるが、そういう慣れない環境の中で一から関係性を作り上げていくことに、学生さんは不安を覚えるのではないかと思う。職員同士の人間関係が良いということはお互いを理解し相手を認めあっている環境なので、新人であっても個を尊重し、認め、気に掛けるといったコミュニケーションがしっかりできていると考える。その関係性が、安心して働ける職場環境につながるのではないか。</p>
	乳幼児期における「子どもと保育者の望ましい関係」についてのお考えをお聞かせください。また、そのような関係を築く上で大切にしていること、実践していることを具体的にお教えてください。
<p>保育者が子どもとの関係性を築くうえで大切にしているのは、応答的に対応することである。保育園に入園し初めて保護者と離れる子どもは不安な気持ちでいっぱいであるが、自分の気持ちを受け止めてくれる大人がいることで、子どもは安心し信頼できる大人が増え、情緒も安定する。そのため自園では、0, 1歳児クラスを複数担任(5名)とし、まずは子どもが安心できる保育士が気持ちを受け止めるようにしている。</p> <p>また、応答的な対応等、子どもの気持ちに共感すること、否定語や命令語を使わないこと、また嫌がることを無理やりしない、鼻を拭くときや椅子から抱き上げる時には予告するなど人権にも配慮し実践している。[子どもにとっての1番はなにか]「大人の都合で子どもを動かしていないか」こういった日常の振り返りの積み重ねにより、子どもの自己肯定感が培われていくと考える。子どもとの信頼関係を基に保育者は子どもに色々教え込むのではなく、子どもの持っている必要な力を引き出すのが役割である</p>	

	<p style="text-align: center;">生活習慣の自立に向けた援助や関わりで大切にしていることについて、 簡単な事例を基にご紹介ください。</p> <p>0, 1 歳児クラスでは食事のエプロンやおしぼりを子どもたちが「自分で」片付けたい時期がやってくるが、その時に入れる袋が入れづらいものだと、せっかくの「やりたい」気持ちをそいでしまうことになるので、保護者にも協力してもらい子どもが入れやすい素材や大きさのものを準備している。衣服も着脱しやすい素材やサイズの合ったものなど子どもの意欲を大切に、自信につなげている。保育園の生活の中で「自分でできた」という経験を多くできるように環境を用意するように心がけている。</p>
<p>学生へのメッセージ</p>	<p>なぜ保育の道を志したのか？と聞かれた時の答えは人それぞれだと思いますが、就職した新人それぞれの夢を実現させるためにサポートするのが、私たち先輩の役割です。未来ある子どもたちを育てるために、職員の夢が実現できる保育園でありたいと思います。みなさんも、学びを生かして素敵な保育士を目指してくださいね</p>